＝10月歩こう会　犬山城下町散策・中部関西支部合同企画＝

日　時:2026 年 10 月 23 日(金)

場　所:愛知県犬山市

参加人数:18 名

当地では戦国時代の三英傑といわれる織田・豊臣・徳川の人物が輩出されたと自慢気に語られます。

特に最近 TV でドラマが放送され人々の耳目を集めていますが、以前から名古屋はというと白い街とあまりいい呼称はありません。

ですがアジア大会が開催されたりしてインバウンドも増加しておりますので、再発見すべく国宝犬山城と昔からの城下町を散策することとしました。



全員集合出発です

犬山城は天文六年(1537)頃に築城されたといわれており、天守は現存する日本最古のものです。 木曽川のほとり、小高い山の上に建てられた「後堅固の城」で天守最上階からの眺めはまさに絶景です。
三英傑がそれぞれにこの城を手にして天下取りの足がかりとしました。

今回は以前から交流している関西支部から7名の同志(92歳の超人含む)を迎え、総勢18名の団体となりました。
ボランティアガイドさんも2名お願いし二組に分かれて案内して頂きましたが、
同じ70歳代とはいえ、毎日の活動で城の狭い急な階段を簡単に上がり下りされ敬服しました。
自身としては城のことを表面的に知っている心算でしたが、ガイドさんは案内も的確で細部に渡り教えて頂き参考になりました。 我々は登城の恐怖の後に下りを滑らず無事下りられるか心配でした。昔の武士は当たり前に過ごしていたと思えば驚きです。
鎧・カブト等武具や展示品に関する裏話等やガイドさん本人が加賀の前田家との関わりがあると自慢しておりました。



熱心に説明を聴く



全員登ってきました



天守全景



天守最上階からの眺望

更に犬山城の隣に織田信長の弟で有楽町の語源となった有楽斎(うらくさい)にまつわる茶室が移築されています。 千利休も使用したという「国宝茶室　如庵(じょあん)」がそれです。

如庵には”ニジリグチ“の小さい入り口の脇に”刀置き“があったとされており武士時代の面影が伺えました。

以前遊園地があったという4,000坪の広大な敷地を整備した庭園に如庵だけでなくその他重要文化財の建物等が、移築、復元されています。

庭園は「有楽苑」と名づけられ見学することができます。 こちらもガイドさんに案内していただきました。

一般の犬山城見学者はここまで脚を運ばないことが多いのですが、静かに落ち着いた場所です。 庭園内の茶席で一服の呈茶を頂き見学の思い出とし帰路につきました。





古い街並みを歩く



昼食は「木の芽でんがく」

名古屋まで戻り、この後の交流会では大いに盛り上がり、次回への再会を願って散会としました。





懇親会のようす

（担当幹事：水谷　清春）